
日本キャリア教育学会ニューズレター
2020年度・新年特集号（2021.1.1発行）

発行：日本キャリア教育学会 情報委員会
<http://jssce.wdc-jp.com/>

※2021年最初のニューズレターは、新年特集号です。

日本キャリア教育学会が2020年9月に発行した『新版 キャリア教育概説』の書評を多様な専門領域の4名が寄稿しました。
巻頭言として豪華陣からのお言葉もいただいております。

※2020年度はニューズレターの特集テーマを「キャリア教育の多様性」と設定しました。冬号（第4弾）は「ジェンダーから見たキャリア教育2 女性」ということで専門家／当事者の皆さまに執筆いただいています。お楽しみに。

※ニューズレターのバックナンバーは下記URLから読めます。
http://jssce.wdc-jp.com/committee/information_comm/

+.....+

目次

【書評特集】

『新版 キャリア教育概説』

（日本キャリア教育学会（編） 東洋館出版社 2020）

<http://www.toyokan.co.jp/book/01/b525650.html>

【巻頭言】

[『新版 キャリア教育概説』書評特集に寄せて（三村 隆男 前会長）](#)

[「まえがき」より（下村 英雄 会長）](#)

[「あとがき」より（松井 賢二 編集委員長）](#)

【書評】

[渡部 昌平（秋田県立大学 総合科学教育研究センター）](#)

[竹内 一真（多摩大学 グローバルスタディーズ学部）](#)

[橋本 賢二 \(人事院\)](#)

[高丸 理香 \(静岡大学 国際連携推進機構\)](#)

【お知らせ】

[日本キャリア教育学会 Facebook ページの開設](#)

+.....+

【書 評 特 集】

『新版 キャリア教育概説』

(日本キャリア教育学会 (編) 東洋館出版社 2020)

<http://www.toyokan.co.jp/book/01/b525650.html>

【巻頭言】

『新版 キャリア教育概説』書評特集に寄せて

三村 隆男

日本キャリア教育学会 前会長

早稲田大学

旧版に続き『新版キャリア教育概説』が日本キャリア教育学会の英知の結晶として出版された。長い封建制度、独裁制度、身分制度から解放され、産業革命を起点に多くの職業が選択肢に挙がり、人々は自らの生き方を自らで決める権利を行使することができるようになった。それを守り、支援するのがキャリア教育学であり、わが国の魁となった学会が日本キャリア教育学会である。

下村英雄現会長の尽力で、ミッション・ステートメントを広く当学会は宣言し、キャリア教育における社会正義の重要性を示した。本書にもそうした理念が根付いている。社会正義の研究者であり唱道者であるナンシー・アーサー博士は、社会正義の原点をパーソンズのボストンにおけるガイダンス運動に見いだしている。ボストンに遅れること約10年、大阪で弱者支援の社会事業として年少者の職業指導がわが国で始まる。その中核となった人材は東京に移動し、大日本職業指導協会を1927年に設立する。戦後、日本職業指導協会となった同協会に付設されるかた

ちで 1953 年に日本職業指導学会が発足する。日本キャリア教育学会の前身である。戦時中の厳しい時代もあったが、社会正義につながる原点的活動の系譜にある同協会をルーツにもつ当学会が社会正義を標榜する歴史的必然性がここに存在する。

いかに変化がはげしくともその理念にゆらぐことなく活動と続ける当学会の確かな里程標としての役目を本書が担い、後に続く人たちに力強く継承していただくことを願い、書評特集の巻頭言とさせていただきます。

「まえがき」より

下村 英雄

日本キャリア教育学会 会長

日本労働政策研究・研修機構

今から約 40 年前、日本キャリア教育学会の前身たる日本進路指導学会は、会員数 130 名で発足したと伝え聞く。その後、創立 20 周年には 600 人を超え、40 周年には 1,000 人を超えた。この学会は、この 40 年の間に 7 倍以上に会員を増やした。それだけキャリア教育に関心をもつ人々を引きつけてきたのだといえるだろう。

しかし、私たちが「キャリア教育に関心をもつ」と言ったとき、私たちは何に関心を引きつけられたのだろうか。(中略) 私たちは、ある 1 点において、とても強い関心を共有しているのではあるまいか。子供や若者が、自らの進路やキャリア、就職や進学に思い悩む。できれば、その思いや悩みを幸せな将来へと結び付けてほしい。そのために、私たちは少しでも力を尽くそう。そう思ったのではあるまいか。(中略) 私たち大人の手を離れて、一人、生活を立て直そうと奮闘する若者が頼り得る手掛かりの一つは、きっと学校時代に学んだキャリア教育であるだろう。そう私たちは信じている。(中略) まさに「不易流行」と呼ぶべき伸展を続けてきたのがキャリア教育である。(中略) 学会が総力を上げて「キャリア教育とは何か」に取り組んだ(中略) 本書をご参照いただきたい。

現在、新型コロナウイルスによる世界的な大混乱の渦中であって、将来を全く見通すことができない。そうした中、自分の進路やキャリア、就職や進学を真剣に思い悩む子供たちが、やがて自分の力で、自分の夢や希望を実現していくこと。そのことに関心をもつ多くの大人たちに、

本書を役立てていただけることを、改めて希う。

「あとがき」より

松井 賢二

日本キャリア教育学会『新版 キャリア教育概説』編集委員長
新潟大学

初版の『キャリア教育概説』が出版された2008年から早いことに12年が過ぎました。この間、国内外において、キャリア教育に関わる理論や実践において、数々の進展がありました。ちょうどこの時期に、再び東洋館出版社の大場亨氏から声をかけていただき、学会編として「新版」を世に著すことができましたことは、本当に幸いなことと存じます。

私自身、初版に続いて、今回の新版においても編集委員長として関わらせていただきました。この場を借りて、本書刊行にご尽力くださった本学会会長（編集統括）の下村英雄先生をはじめ、8名の編集委員の先生方、並びに、ご多用中にもかかわらず、本書の執筆に携わってくださった50名の先生方、そして東洋館出版社の皆様にご心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、今回大きく改訂した点は、内容構成についてです。すなわち、初版の12章構成から9章構成へと内容を精選しました。しかしながら、総頁数はあまり変えず、むしろ本学会としてキャリア教育のエッセンスと考える事項を重点的に記述するとともに、初版においてあまり触れることのできなかつた点を増補しました。（中略）本書が、今後の日本におけるキャリア教育の普及と発展に少なからず貢献することができましたならば、本学会として至上の喜びです。（中略）重ねて皆様のご協力に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

※「まえがき」より、「あとがき」より、は『新版 キャリア教育概説』の「まえがき」と「あとがき」の内容を抜粋して再構成したものです。原文の「、」はニューズレター掲載に合わせて「、」に変更して統一していますが、その他の部分は原文ママです。（再構成：家島明彦）

【書評】

キャリア教育の最新理論も実践もこれ1冊で

渡部 昌平

秋田県立大学 総合科学教育研究センター

身内だから言うわけでなく、この本は本当に素晴らしいです。12年前の『キャリア教育概説』もよくまとまった本だと思いましたが、今回の本は(1)2000年代以降の海外の最新理論も網羅されている、(2)小中高大、専門学校、特別支援学校のキャリア教育の実際が掲載されている(前著もそうでしたが)、(3)現代社会における課題も掲載されている、(4)外国のキャリア教育の情報もいっぱい(前著から地域が拡大)、(5)さらに関連法規までついている(!)と誰のどんな痒いところにも手が届く、本当に素晴らしい内容になっています。お世辞抜きで編者の企画調整能力は素晴らしい。

学校の実践家は実践だけ読んでもよし、理論家は理論だけ読んでもよし、実践家かつ理論家にとってはどちらも魅力的、キャリア教育に関わる実践家も理論家も(あるいは両方を兼ねる人も)、とても参考になる良質の書籍に仕上がっています。日本全国の教員に読んでほしいくらいです。もし47都道府県の教育委員会にこの本を献本するプロジェクトがあれば、私もとりあえずいくらか寄付します(誰かやりませんか?)。それくらい内容の濃い書籍だと思います。学会会員の皆さんもぜひお手に取っていただき、もし気に食わないところがあれば私に文句のメールを送ってください(笑)。ぜひ本気の議論をしましょう。

さて本書は学会のベテランから若手?中堅?に至る数十人による汗の結晶です。松井賢二先生を編集委員長、下村英雄会長を編集統括として、三村隆男先生、浦上昌則先生、横山明子先生、本間啓二先生、京免徹雄先生、古川雅文先生、川崎友嗣先生を編集委員として編集・出版されました。出版前に亡くなられた川崎友嗣先生のご冥福を、心の底よりお祈りいたします。ちょっと前の話になりますが、若造のワタシが東京で研修講師をした際に、川崎先生がわざわざ関西から受講に来てくださったこと、今でもしっかり覚えています。もっとたくさんお話をしておけば良かった。もっとアドバイスをいただければ良かった。。。

キャリア教育の今を知る

竹内 一真

多摩大学 グローバルスタディーズ学部

本書の特徴を一言でまとめるとするならば、キャリア教育の基礎知識をまとめるとともに、キャリア教育の置かれている問題や課題を知ることができる貴重な書とすることができよう。

本書の基本的なコンセプトは2008年に出版された旧版の『キャリア教育概説』から受け継がれている。例えば、旧版にあった「進路指導からキャリア教育へ」や「フリーター・ニートと若年者のキャリア形成支援」といった章はなくなったものの、その他の章は旧版と同じである。そのため、旧版同様、キャリアやキャリア教育についての基本的な知識や理念を幅広く学びながら、諸外国の現状や課題について学ぶことができるよう配慮されている。また、章のタイトルは同じでも内容は時代に合わせて記述されている。例えば、4章「キャリア教育の展開」や「諸外国におけるキャリア教育の動向」などは旧版と全く同じ章のタイトルではあるが、旧版発刊後の展開がフォローされており、2010年以後のキャリア教育の展開を知るのにまさにうってつけの書籍となっている。

このように基本的なコンセプトを受け継ぎつつも、大きな変更もなされている。特に興味深いのが9章の「キャリア教育と現代社会」と題された章である。AI、グローバル化、格差社会という今まさにキャリア教育が直面する大きな問題を扱っている。AI化は既存の職業を部分的に置き換えるなど、不確実な社会を推し進め、個人の学習のあり方も変化を促している。そのような状況を踏まえ、AIに関する節では、AIが進む社会での人材育成のあり方や、プログラミング教育、諸外国の動向などがまとめられている。また、グローバル化は国内の外国人労働者を受け入れることによる雇用環境の変化と、国内の人材が海外に出向くことに伴う求められる能力の変化という2つ側面を中心に記されている。そして、最後の格差社会は、国内・国家間を問わず、社会的な不平等や分断が拡大しており、キャリア教育は社会的な包摂や平等を推進する社会的正義を持つ必要性について整理されている。このようにこの10年で急激に顕在化した、そして、今後、キャリア教育の未来を考える上で重要な三つの問題が取り上げられている。

ここまで見てきたように、本書はキャリア教育の基礎的な知見を得るための書としても、そして、最新の知見を得るための書としても非常に有意義な示唆を与える物となっている。日本キャリア教育学会が前進の日本進路指導学会を含め 40 年という記念碑的な作品にふさわしく、教育者・研究者・実務家を問わず、キャリア教育に携わるすべての人に手にとってほしい内容になっているといえよう。

キャリア教育のこれまでとこれから

橋本 賢二
人事院

本書はキャリア教育について、その歴史、関連する理論、学校での実践、各国の動向などを概説する入門書である。読みやすい文体と文量で網羅的にまとめられた本書は、キャリア教育に関する研究者には基本に立ち返るものとなり、キャリア教育の実践者にとっては、実践をより効果的にするための足腰を鍛えるものとなる。また、行政や産業界からキャリア教育に関わる人にとっては、キャリア教育の全体像を身に付けるとともに、政策形成や支援の在り方を振り返る材料となろう。日本キャリア教育学会の「キャリア教育の基本原則」は、人生 100 年時代におけるキャリアの構築を企図しており、社会正義の観点を盛り込むなど、これからの社会で求められるキャリア教育の方向性を示すものである (p.21)。本書は、それぞれの場でこのキャリア教育の方向性を考えるための足掛かりとなるものである。

現代社会は変化が著しいとも言われるが、その要因は「IX キャリア教育と現代社会」にまとめられているように、AI 技術の目覚ましい発展やグローバル化の急速な進展による経済の大きな変化とこれらの変化が加速させている格差社会にある。これらの要因は、個人の意志決定や社会的な認知を複雑にする一方で、個人は「社会の中で自分はどうか」など自分の在り方が強く問われるようになっている。例えば、近年の産業界では、従業員の自律的なキャリア形成が大きな関心として取り上げられている。さらに、2018 年 3 月に経済産業省が示した「人生 100 年時代の社会人基礎力」は、小職も担当者として策定に関わったが、そこに記される個人に向けた主なメッセージは、それぞれが自分のキャ

リアは自分で築くという自覚を促す「キャリア・オーナーシップ」を持つべきというものである。

このような流れを踏まえれば、10年後に行われると期待される次回改訂に向けた学会の課題として、大人のキャリア教育の観点を盛り込むことが考えられるのではないか。キャリア教育に関する議論の中心は、小学校から大学までの教育機関で展開されるものに注目されがちである。事実、本書で示される展開例は小学校から大学までの教育機関における実践であり (pp.72-109)、教育機関以外の関係は企業や相談機関におけるキャリア・カウンセリングに関する記述のみとなっている (pp.127-130)。

リカレント教育が政策として推進されるなど、昨今の生涯を通じたキャリア教育の必要性が認識されつつある状況を踏まえれば、今後のキャリア教育の学術的・社会的課題のフロンティアは、キャリア教育と大人の関係にあるのではないか。質の高いキャリア教育をより広く多くの人々に展開していくためには、キャリア教育に関する研究も、(自戒も込めて) 教育機関を主としたものだけでなく、より広い概念も包含した観点が必要になってきているのではなかろうか。

キャリア教育を実践するために

高丸 理香

静岡大学 国際連携推進機構

2008年の初版から満を持して「新版」として本書が出版されたのだが、この10数年は、まさにキャリア教育の転換期であったのではないだろうか。実のところ、わたしがキャリア教育の世界に足を踏み入れたのは、初版が出版された2008年である。当時、求職中で20社連続での不採用通知を前に途方に暮れ、失業給付を少しでも長く受給するために仕方なく受講したのが職業訓練校のコースの1つである「キャリアコンサルタント養成講座」だった。訳も分からずに資格を取得したその直後、リーマンショックに直面した。すなわち、本書は、それまでの知見に加えて、リーマンショック後、新たに顕在化した多種多様な課題に対して、着々と積み重ねられてきた多くの先生方の知識と経験の結晶とも言える。それゆえに、実践家としても、また教員としても、本書から得られ

ることは多い。

まず、2008年当初の実感として、ハローワークや大学などのキャリア・カウンセリングとは、転職や就職に直結したものの限定されていた。しかし、本書の5章では、現在は、産業界にとどまらず、学校教育における実践にまで関心が高まっており (p.112)、小学校から高等学校までの生徒一人ひとりの学習状況やキャリア形成、自身の成長などをポートフォリオ化する「キャリア・パスポート」が導入されるまでに至った (p.120) ことが触れられている。その経緯や意義はもちろんのこと、実際の事例を惜しげもなく掲載されている点は、実践家としても重宝する。

次に、キャリア教育担当の大学教員となって最も悩ましく感じている点が「評価」であるが、それについてもその目的や意義に加え、「評価の種類と方法」「評価の先進的実践例」「海外における評価の動向」と幅広く、しかしポイントを押さえた説明がなされている。欲を言えば、「いかに評価指標を設定したか」の実践例を多く知りたいところではあったが、それはわたし自身を含めて、これから試行錯誤のなかで見出していくものなのであろう。

最後に、現代社会の課題に向けたアプローチがなされている9章からは、これからのキャリア教育への多角的な示唆を得ることができる。個人的には、2節「グローバル化とキャリア教育」が現職とのかかわりが深く、グローバル化やグローバル人材といった言葉の定義をはじめ、それに紐づく知見がコンパクトにまとめられており有用である。

ここまで、教員として、実践家として、本書に対する個人的な所感を述べてきたが、コロナ禍の影響によって、奇しくも働き方やキャリアに対する価値観が大きく変わろうとしている2020年に本書が出版された意味をさらに深く考えずにはいられない。キャリアとは、すべての人々にとって重要なトピックスであることは間違いない。しかし、そこに教育、産業、行政など立場やその役割が持ち込まれることで生じるジレンマもある。だからこそ、本書の根幹は、3章4節で指摘されている「社会正義」にあるのではないかと思われる。本書から発信されるメッセージが多くの方のもとに届くことで、新たな年がすべての人々のキャリアにおける「社会正義」につながることを願っている。

日本キャリア教育学会 Facebook ページの開設

2020 年 11 月に Facebook ページが開設されました。

ウェブサイトの情報に加えて、学会主催以外のキャリア教育に関するイベントに登壇される場合の告知などを発信していきます。

掲載を希望される方は、「Facebook ページ掲載依頼マニュアル」手順に従ってご依頼ください。

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/jssce2020>

Facebook 掲載依頼マニュアルは以下の URL をご確認ください。

<https://www.facebook.com/jssce2020/posts/119659276638668>

-
- ◇日本キャリア教育学会ニューズレターは、日本キャリア教育学会情報委員会が発行し、特集テーマに沿った記事を会員の皆様にお届けするものです。
 - ◇会員の皆様のメールアドレス確認・登録を継続的にしております。身の回りの会員でニューズレターが届いていない方がおられた場合、学会事務局 (jssce-post@bunken.co.jp) 宛に受信用メールアドレスから登録申請していただきますよう、お伝えください。
 - ◇ニューズレターに対する皆様のご感想・ご意見・ご提案を随時お待ちしております。情報委員会 (jssce-ic@googlegroups.com) までお気軽にご連絡ください。
 - ◇キャリア教育関連の著作を発刊・発表した会員は、是非とも学会事務局まで献本いただければ幸いです。学会ウェブサイト上に書名と著者名を掲載した上で、書評欄で取り上げさせていただきます。
 - ◇文中敬称略

日本キャリア教育学会情報委員会 発行
委員長：家島明彦 副委員長：渡部昌平
委員：京免徹雄、長尾博暢、市村美帆
高丸理香、竹内一真、橋本賢二
本田周二
